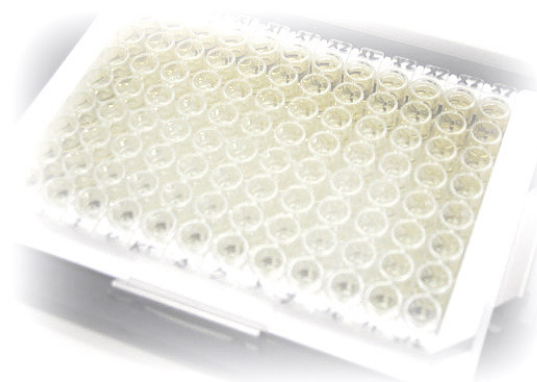


株式会社 免疫生物研究所

JASDAQグロース 証券コード：4570



代表取締役社長 清藤 勉
平成25年11月20日（水）



平成26年3月期 (第32期)

- 1. 第2四半期連結決算、
連結業績予想の概要**
- 2. 新株予約権の状況**
- 3. 中期経営計画の進捗状況**
- 4. 中期経営計画**

**平成26年3月期 (第32期)
第2四半期連結決算と
連結業績予想の概要**

【連結貸借対照表の概要】

単位:百万円		平成25年3月期 期末 個別(参考)		平成26年3月期 第2四半期末 連結		
			構成比		構成比	増減 【参考】
	流動資産	1,278	48.9%	1,202	45.5%	▲76
	(現預金)	836	32.0%	811	30.7%	▲25
	固定資産	1,335	51.1%	1,441	54.5%	+106
資産合計		2,614	100.0%	2,644	100.0%	+30
	流動負債	241	9.3%	226	8.6%	▲14
	固定負債	125	4.8%	101	3.8%	▲23
負債合計		366	14.0%	328	12.4%	▲38
純資産合計		2,247	86.0%	2,316	87.6%	+68
負債純資産合計		2,614	100.0%	2,644	100.0%	+30

単位:千円	H25年3月期 第2四半期 累計期間 (個別)「参考」	H26年3月期 第2四半期 累計期間 (連結)	対前年 同期 増減額 「参考」	連結業績 予想
売上高	381,364	245,026	▲136,338	720,000
営業利益	3,234	▲123,513	▲126,748	▲200,000
経常利益	71,450	▲125,235	▲196,686	▲205,000
当期利益	62,211	▲139,401	▲201,613	▲225,000

- 売上高は、上場来最低水準へ
- 経費削減も及ばず、大幅赤字へ
- 下方修正発表(平成25年10月21日)

【セグメント別売上高(診断・試薬事業)】

単位:千円	H25年3月期 第2四半期 累計期間 (個別)「参考」	H26年3月期 第2四半期 累計期間 (連結)	連結業績 予想	下期目標
試薬関連	288,635	181,004	450,000	267,000
診断関連	80,349	19,946	60,000	40,000
合計	368,984	200,951	510,000	307,000

(試薬関連)

新規開拓がまったく進まず、販売不振の改善が見られない

⇒販売不振の原因を徹底的に追究

⇒海外を当社にて販路拡大

(診断関連)

牛海綿状脳症(BSE)の牛全頭検査中止で売上減少

⇒競合他社の撤退

【セグメント別売上高(遺伝子組換えカイコ事業)】

単位:千円	H25年3月期 第2四半期 累計期間 (個別)「参考」	H26年3月期 第2四半期 累計期間 (連結)	連結業績 予想	下期目標
遺伝子組換え カイコ	12,380	5,034	36,000	31,000

(遺伝子組換えカイコ事業)

繭より生産される有用タンパク質の特徴を、積極的に宣伝
⇒医薬品関連企業等から、引き合いが増加

動物用医薬品関連企業との連携を検討
⇒早期に共同開発契約を締結

【セグメント別売上高(検査事業)】

単位:千円	H25年3月期 第2四半期 累計期間 (個別)「参考」	H26年3月期 第2四半期 累計期間 (連結)	連結業績 予想	下期目標
検査事業		39,040	139,000	100,000

(検査事業)

平成25年7月1日に株式会社スカイライト・バイオテックを
完全子会社化、当初の計画通りに推移

⇒設備の充実及び人材の確保

⇒診断・試薬事業とのシナジー効果追求

【セグメント別売上高(化粧品事業)】

単位:千円	H25年3月期 第2四半期 累計期間 (個別)「参考」	H26年3月期 第2四半期 累計期間 (連結)	連結業績 予想	下期目標
化粧品関連			50,000	50,000

(化粧品事業)

ヒト・コラーゲン含有の化粧品の開発

全国ドラッグストア、海外化粧品メーカーへの販促活動

⇒平成25年11月中旬に製品化

⇒来年度の春商戦に向けて国内外にサンプル出荷を開始

⇒全国のドラッグストア及び海外への販売活動に注力

販売子会社(アンテナショップ&通販)の設立準備

⇒元大手化粧品通販事業責任者とコンサルタント契約締結

⇒販売店(アンテナショップ&通販)の開設

→通販事業を開始

【連結キャッシュ・フロー】

単位:百万円	平成25年3月期 第2四半期 累計期間 個別(参考)	平成26年3月期 第2四半期 累計期間 (連結)	主な要因
営業活動による キャッシュ・フロー	210	▲17	<ul style="list-style-type: none"> ・売上債権の回収 +111 ・税金等調整前四半期純損失の計上▲137 ・法人税等の支払 ▲10
投資活動による キャッシュ・フロー	5	▲71	<ul style="list-style-type: none"> ・投資有価証券の売却 +182 ・投資有価証券の償還 +100 ・投資有価証券の取得 ▲180 ・有形固定資産の取得 ▲45
財務活動による キャッシュ・フロー	▲16	53	<ul style="list-style-type: none"> ・配当金の支払 ▲29 ・借入金の返済 ▲25 ・新株予約権の行使 +103
現金及び現金同等 物の期末残高	610	759	

新株予約権の状況

【第1回新株予約権の行使状況】平成25年10月末日まで

- 新株予約権交付株式数: **700,000株** (10/1、1株⇒10株に分割)
- 行使株式数: **340,400株** (行使割合49%)
- 行使金額: **541百万円** (目標調達額: 1,300百万円)
株価低迷により、調達額減少
⇒ 中期経営計画を着実に実行
 - 企業価値の向上
 - 株価上昇
 - 目標調達額を達成

【資金使途の状況】

単位：百万円	使途 予定金額	使途金額	状況
各種動物用ワクチンの 製造・分析・評価・非臨床試験	380	未発生	順調に進行中
化粧品業界における 有用な企業の連携、獲得	200	80	(株)エムコスメティックス を子会社化、販売子会 社(アンテナショップ& 通販)設立予定
遺伝子組換えカイコによる新規有用タン パク質候補の獲得のための研究開発費 及び事業化に向けた、連携パートナーの 獲得活動資金	100	未発生	順調に進行中
金融機関からの借入金返済	200	未実施	調達資金額により検討
生産拠点の設立及び付属設備	482	未発生	具体的に検討中

中期経営計画の進捗状況

【成長戦略】

(体外診断用医薬品)

- アルツハイマー病に対する体外診断用医薬品
- 難聴・めまいの世界初のバイオマーカー(CTP)
- 中皮種に対する体外診断用医薬品(ERC)

(遺伝子組換えカイコの繭による)

- 動物用ワクチンの実用化
- 有用タンパク質の実用化
- 試薬、診断薬原料への実用化(抗体)

(ヒト・コラーゲン化粧品原料)

- 株式会社エムコスメティック(子会社)の展開
- 販売子会社(アンテナショップ&通販)の設立

(検査事業)

- 株式会社スカイライト・バイオテックの技術

項目	第2四半期実績（32期）	戦略
アルツハイマー病	IBL-I(欧州)との共同開発	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 第3四半期においてCEマーク取得 ➤ 今年度中の販売開始(欧州)
癌関連	<p>順天堂大学との共同研究</p> <p>琉球大学との共同研究 →ATLの原因となるHTLV-1 感染防御能力を有する抗体をヒト化 →9月に特許出願</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 中皮種の試薬キットの製品化 →体外診断医薬品に向けた開発 ➤ 抗体医薬シーズとして導出へ
難聴・めまい(CTP)	<p>学校法人埼玉医科大学 →独占的使用許諾を取得 専門家とコンサル契約を締結</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 3年後の製品化に向けて検討開始

■ 動物用ワクチンの実用化

→動物用治療薬原料

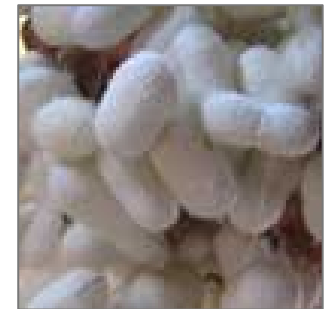
他社と共同開発中

カルタヘナ法の申請、前臨床試験に向けた製造実施中

→ウイルスワクチンの共同開発

人工的に合成した遺伝子を組み込んだ遺伝子組換えカイコを作出し、繭中からワクチン用タンパク質を生成

将来に向けた基礎的な共同研究を開始



■ 有用タンパク質の実用化

→フィブリノゲン(止血剤)の開発

遺伝子組換えフィブリノゲンの精製方法確立、詳細な解析によって、天然型と同様アミノ酸組成であることを確認
活性の詳細を検討中

■ 試薬、診断薬原料への実用化(抗体)

→自社製品原料抗体の転換

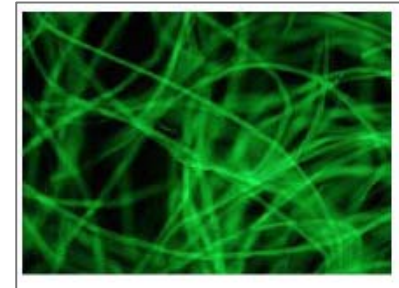
主要なモノクローナル抗体をカイコ由来の抗体に転換

→他社製品原料抗体の転換

確実な収益源として有望視。既存取引先からの受注増
新たな企業からの引き合いも有り

<特徴>

- ・安定的な生産
- ・非特異反応の抑制
- ・均一性が高い



- (株)エムコスメティックス(子会社)の展開
- 販売子会社(アンテナショップ&通販)の設立

原料の開発製造から
化粧品製品の販売まで
一貫した事業展開による
原料の拡販を推進



繭から抽出精製
凍結乾燥品:「原液」
INCI名、表示名称を取得



原料製造



(OEM委託製造)

通販
コンサルティング

原料販売

(株)エムコスメティックス

販売会社

化粧品原料商社

化粧品製造・販売

大手化粧品メーカー
化粧品OEMメーカー

ドラッグストア
量販店
海外メーカー
エステティックサロン

アンテナショップ
通販



ユーザー



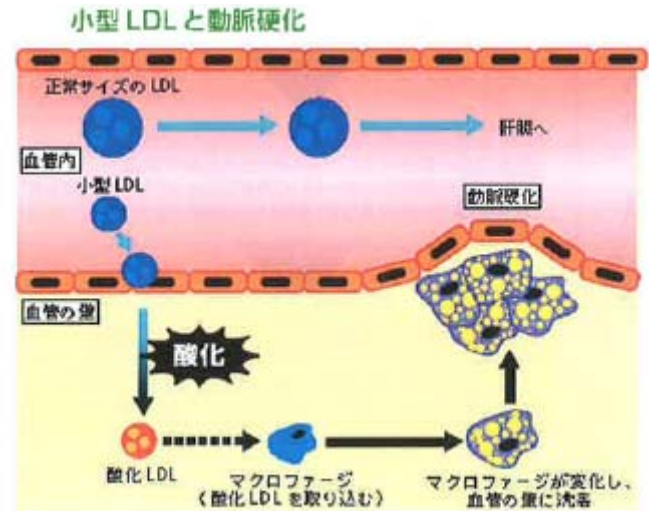
【検査事業】 診断・試薬事業との シナジー効果を目指して

株式会社スカイライト・バイオテックの技術

社名の由来:「研究者が抱えるボトルネックの解消」を目指し、
悩める研究者に光を照らす「天窗」という意味をこめて

特に小型LDLを中心に、各リポタンパク質を
精度良く迅速に分析することができる。

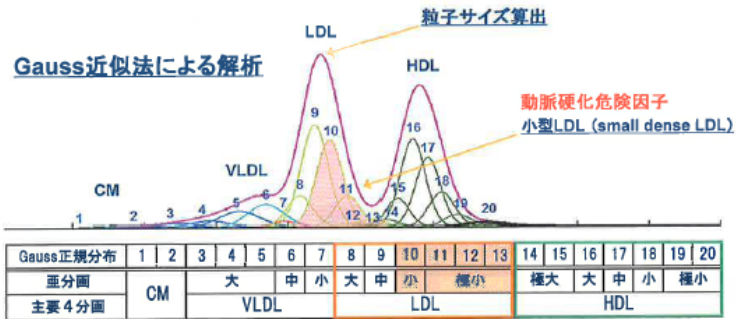
リパーゼは各リポタンパク質を基質として分解する酵素で、
体内での脂質代謝に重要な役割を果たしています。
IBLでは各種リパーゼ測定用ELISAキットを開発しており、
各種リポタンパク質の測定を行うスカイライト・バイオテック
とのシナジー効果を目指してまいります。



超悪玉コレステロール＝小型LDLは
血管壁にもぐりこみやすく、酸化されや
すいため動脈硬化を進行させる。

IBL リパーゼ測定キット	EL	HTGL	LPL
	内皮性リパーゼ	肝性リパーゼ	リポプロテインリパーゼ
発現部位	血管内皮、血管平滑、マクロファージ、甲状腺、肺、肝臓、子宮、卵巣、精巣	肝臓、副腎	脂肪細胞、骨格筋、心筋、マクロファージ
生理的基質	HDL(リン脂質)	レムナント(TG)	カイロミクロン、VLDL(TG)

LipoSEARCH® データ解析



単位：百万円	平成27年 3月期	平成28年 3月期	平成29年 3月期
売上高	1,400	2,490	3,400
研究用関連事業	450	450	450
医薬用関連事業	120	190	220
遺伝子組換えカイコ事業	150	320	660
化粧品関連事業	400	1,030	1,500
検査事業	280	500	570
営業利益	80	300	500



本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品上市の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

